



●この説明書は、必ず取付けされる方にお渡しください。

■取付けされる方へのお願い

●本説明書で使われているマークには、以下のような意味があります。

▲警告 …取付けを誤った場合に、使用者などが死亡又は重傷を負う危険が想定されます。冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。

▲注意 …取付けを誤った場合に、使用者などが中程度の傷害・軽傷を負う危険又は物的損害の発生が想定されます。冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。

▲警告

●下記のような医用電子機器を使用されている方は、操作を行わないでください。
各医用電子機器に誤作動をまねくおそれがあります。

(1)ペースメーカー等の体内埋込型機器 (2)人工心肺等の生命維持用機器 (3)装着型の心電計等

▲注意

●商品が脱落するおそれがありますので、下記事項をお守りください。

- ・取付け前に補強材（躯体）の位置を確認してください。取付け位置に補強材がない場合は、必ず入れてください。
- ・石こうボードなどで補強材（躯体）が見えない場合は、工務店さまに補強材位置および固定方法を確認してください。さらに針刺しなどでねじ止め位置に補強材の中心があることを確認してください。
- ・リフォームなどの場合、補強材（躯体）位置が石こうボードで確認できない場合は、石こうボードなどはがして補強材位置を確認してください。
- ・石こうボードの表側には、補強材（躯体）は取付けないでください。
- ・補強材（躯体）は硬い木材で、虫食いやくされのない24×70mm以上のものを使用し、柱・間柱などに必ず固定してください。
- ・下地材は、必ず下穴をあけてから、ねじを固定してください。
- ・下地材の下穴は、端部から50mmの位置に1箇所ずつあけ、中間部のピッチは、455mm以下としてください。
- ・ねじは指定のものを指定本数使用して固定してください。
- ・吊車の本体への取付けは、吊車が本体木口面と同一面になるまで押し込んでください。押し込み後、引張って抜けを確認してください。押し込みが足りないと、本体が脱落するおそれがあります。

■取付け上のおお願い

- 枠取付けの際は、水準器・下げ振りなどで水平・垂直を確認してください。
- 造作材・建具枠を取付ける時は、必ず接着剤（現場手配）を併用してください。
かい木を使用する場合は、かい木の両面に接着剤（現場手配）を塗布してください。
- 現場で使う接着剤は、「F☆☆☆☆」またはノンホルムタイプを使用してください。
- 本製品のねじ締付け時には、クラッチ付きドライバーを使用してください。
締付けトルクが強すぎると、ねじが空転したり、ねじの頭がとんだり、つぶれたりする場合があります。
- 各部材のガイド穴にゴミが入らないようにしてください。
- 本製品の組立て・取付け時には、同梱の指定ねじを使用してください。
他のねじを使用すると、部品・部材の脱落や、枠の垂下がり・ゆがみなどの原因となります。
（本説明書内で「現場手配」と記されている場合は除きます。）
- 壁内の通気が悪く、内部結露が発生するおそれがある場合は、防水処理をしてから取付けしてください。
- 造作材・建具枠をコンクリートやモルタル（床面）に直付けしないでください。
やむを得ず直付けする場合は、造作材・建具枠木口と床面の間に、必ず防水処理をしてください。
- 造作材・建具枠の下地材及び、かい木には、必ず乾燥材（含水率20%以下）を使用し、湿潤材は使用しないでください。
- 枠の組立て後、揺らす・ねじれ・引張りなど無理な力を加えないでください。破損する原因になります。
- 枠は倒れ、傾き、タイコ、ツツミ、ねじれがないように取付けてください。
片引枠の場合は、中縦枠の施工にご注意ください。吊込み後、本体とのすき間・干渉の原因になります。
- 納品時に各部材・部品を検品してください。万一製品に不具合があった場合は、必ず取付け前にお買い求め店までご連絡ください。
（施工後の色調・不具合・キズなどによる交換はできません。）
- 本体は落下させたり、立てかける時に衝撃を与えないでください。本体部品が損傷し、開閉に支障をきたす原因になります。
- 梁またはまぐさが軽量鉄骨の場合は、ねじ保持力が弱いいため直接固定しないでください。
必ず枠と軽量鉄骨の間に木枠を入れて取付けしてください。

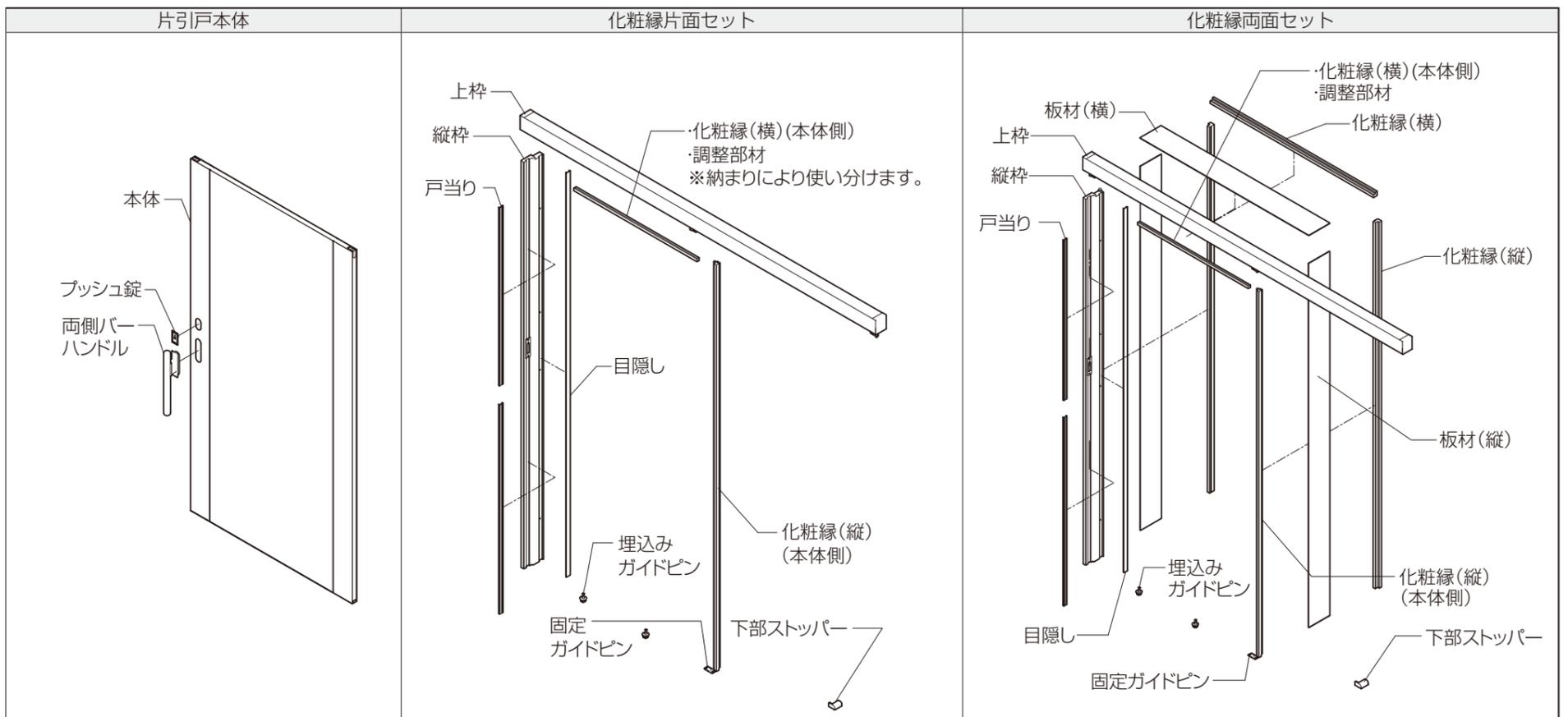
- 取付け時の建具養生などは、ダンボール、ミラーマットなどを使用し、粘着力の強いテープ(ガムテープ、養生テープなど)を長い時間建具表面に直貼りしないでください。テープをはがす際、表面シートを傷めたり、またテープそのものの粘着剤が表面に付着したまま残ることがあります。
- 埋込みガイドピン仕様の場合、クッションフロアや弾性のある床には取付けしないでください。部品が浮いて開閉に支障をきたす場合があります。
- ガイドピンは、「4」ガイドピンの取付け通りに正確な位置に取付けてください。本体の開閉操作に支障がでる原因になります。
- 枠組立て前に鴨居のレールに吊車を挿入してください。吊車の入れ方を間違えると本体の吊込みおよび、建付け調整ができません。
- ガイドピンと下部ストッパーは本体吊込み時に取付けますので、枠の取付け後大切に保管してください。
- 吊車が上部ストッパー(ゴム部)に当たった状態で、下部ストッパーの位置出しをしてください。
上部・下部のストッパーの位置がずれると、上レールが変形するおそれがあります。
- 下地材固定ねじの頭は、下地材表面からとび出さないように取付けてください。上レールが正しく取付けられなくなります。
- 別梱のバーハンドルセット内に同梱されている「戸当り」「戸当り受け」は本製品には不要ですので、取付けしないでください。
- 枠は取付け前に開梱した状態で現場に置かないようにしてください。現場の粉塵がソフトモーション部品に混入し、作動不良の原因となります。
ソフトモーション部品に潤滑剤などを塗布しないでください。作動不良の原因になります。
- 本製品は上吊り方式のため、梁またはまぐさで重量を受けますので、本体重量に耐える断面の梁またはまぐさをご使用ください。
- 運搬・加工の際は、キズ付かないように取扱ってください。

■本体保管上のお願い

- 本体のソリ・ねじれ防止のため、下記場所に置いたり、保管しないでください。
・直射日光の当たる場所 ・昼夜などで温度差の激しい場所 ・湿気の多い場所
- 本体を長期間保管する場合は、寝かせた状態で保管してください。立て置きでの保管はソリ・ねじれなどの原因になります。
※建築工事中は、本体を養生・保全のため取外しておき、取付け完了後に吊込むことをおすすめします。

■部材・部品一覧表

※枠はノックダウン、本体は完成品です。



■片引戸本体

名称	入数
本体	1

■プッシュ錠セット

名称	入数
プッシュ錠本体	1個
錠座カバー	1個
皿タッピンねじφ3.5×8	2本

■バーハンドルセット

名称	入数
バーハンドル・オス	1個
バーハンドル・メス	1個
皿小ねじM5×14	2本
取付け説明書	1枚
※戸当り	1個
※戸当り受け	1個
※戸当り固定ねじ	1本

※の部品は本製品には不要になります

■上枠セット

名称	入数
上レール	1
前面カバー	1
下地材	1
部品セット	1
取付け説明書	1

■化粧縁セット

名称	片面	両面
縦枠	1	1
化粧縁(縦)(本体側)	1	1
化粧縁(横)(本体側)	1	1
調整部材	1	1
化粧縁(縦)	-	2
化粧縁(横)	-	1
板材(縦)	-	2
板材(横)	-	1
ポリネートチューブ	-	2

■部品セット (上枠セット同梱)

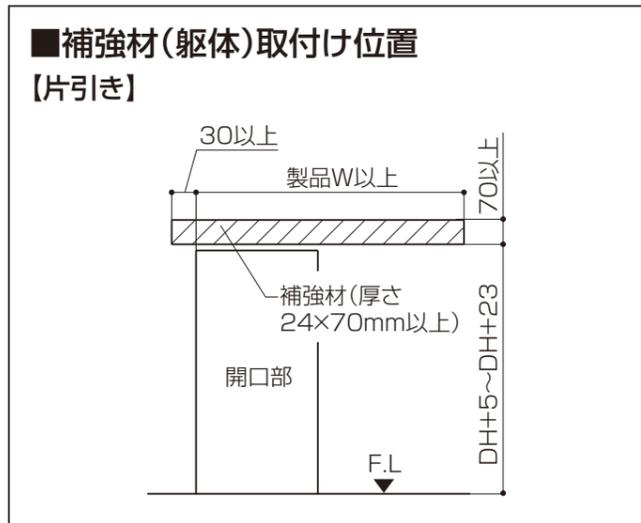
名称	入数
下地材取付け用ねじ (DNねじ65φ3.8×65)	9本
上レール取付け用ねじ (特殊平皿小ねじM4×10)	17本
吊車(リゼントピン仕様)	2個
上部ストッパー	2個
上部ストッパー取付け用ねじ (ナベタッピンねじφ4×45)	4本
端部キャップL/R	各1個
固定ガイドピン(皿タッピンねじ2個同梱)	1個
埋込みガイドピンベース	2個
埋込みガイドピン	2個
縦枠取付け用トラスタッピンねじφ4×50	6本
下部ストッパーL/R	各1個

■据付け前の準備

1 開口部の作成

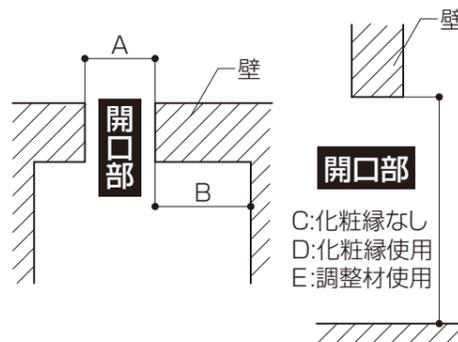
①下地材取付け用の補強材(躯体)を下図にしたがって入れてください。

②開口部を、取付け範囲(a~b)にしたがって作成してください。
※入隅納まりの場合でも、同じ寸法となります。



■取付け範囲

【片引き】



お願い
※開口寸法は、壁を仕上げた状態の寸法としてください。

a) 化粧縁片面セット使用時

	W	DW	A	B
W20	1982	1038	1038	944 以上
W22	2182	1138	1138	1044 以上
W26	2582	1338	1338	1244 以上
特注	W	(W+94)/2	(W+94)/2	(W-94)/2

	H	DH	C	D	E
H20	2030	1957.5	1962	1952 以下	1977
特注	H	H-72.5	H-68	H-78 以下	H-53

b) 化粧縁両面セット使用時

(板材を使用しない場合は、aと同じ範囲です。)

	W	DW	A	B
W20	1982	1038	1044	941 以上
W22	2182	1138	1144	1041 以上
W26	2582	1338	1344	1241 以上
特注	W	(W+94)/2	(W+106)/2	(W-100)/2

	H	DH	C	D	E
H20	2030	1957.5	1965	1955 以下	1980
特注	H	H-72.5	H-65	H-75 以下	H-50

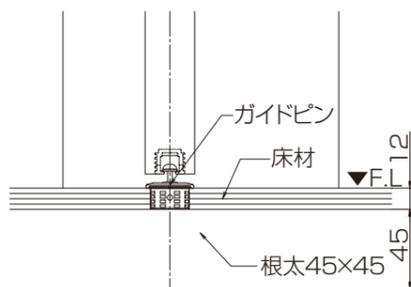
▲注意

- 商品が脱落するおそれがありますので、下記事項をお守りください。
- ・補強材(躯体)は硬い木材で、虫食いやくされのない24×70mm以上のものを使用し、柱・間柱などに必ず固定してください。

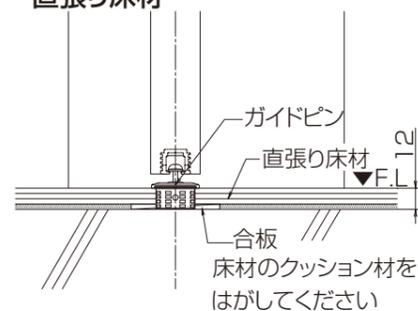
■床の張り方

※本製品は床先張り(枠後付け)専用です。枠の取付け前に床を張ってください。

木造の場合



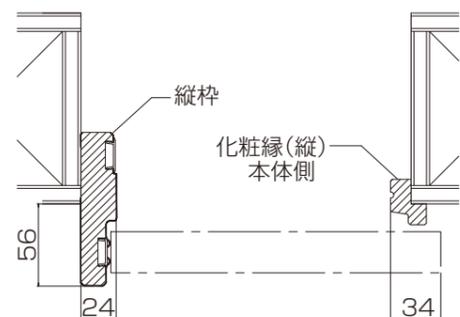
RC造の場合 直張り床材



■据付け前の準備

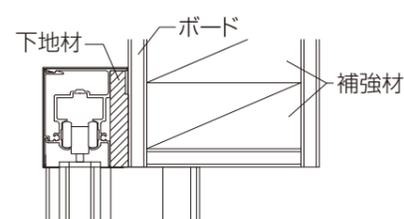
■化粧縁片面セット使用納まり例

●横断面
見付け幅: 24mm



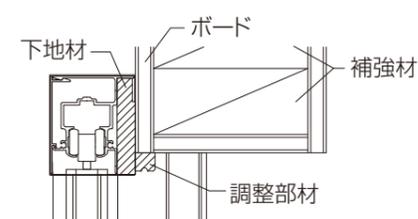
【上部調整部材なし納まり例】

●縦断面



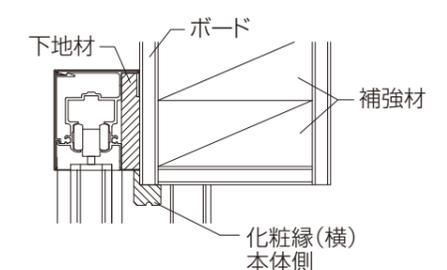
【上部調整部材使用納まり例】

●縦断面



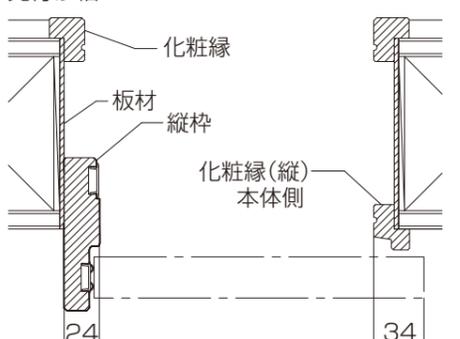
【上部化粧縁使用納まり例】

●縦断面



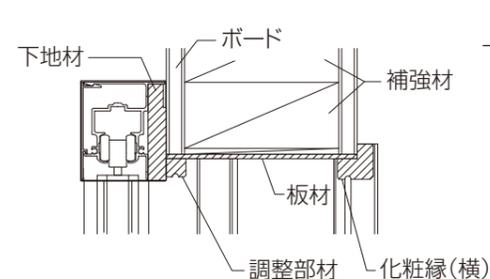
■化粧縁両面セット使用納まり例

●横断面
見付け幅: 24mm



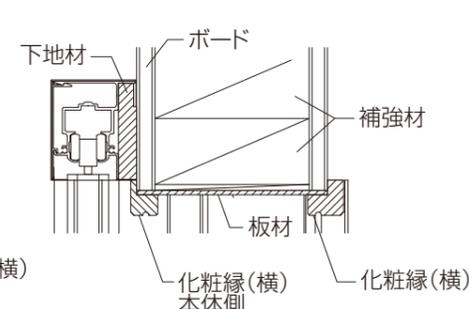
【上部調整部材使用納まり例】

●縦断面



【上部化粧縁使用納まり例】

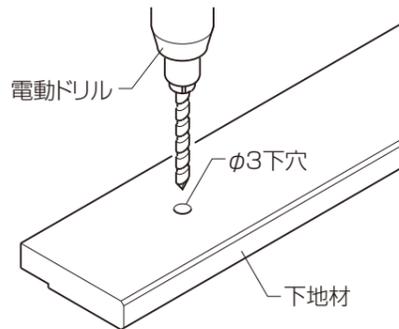
●縦断面



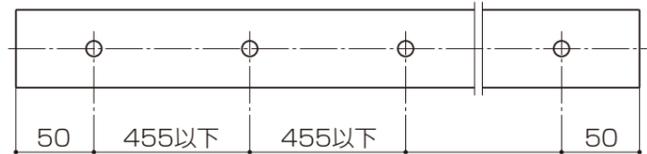
■取付け順序

■1 枠の取付け

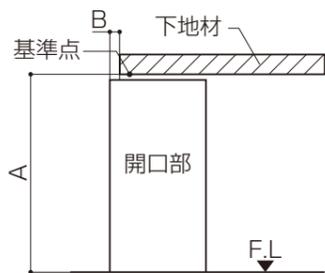
①下地材にφ3の下穴(貫通穴)をあけます。



■下地材下穴ピッチ

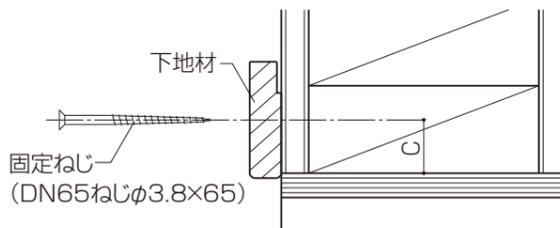


②下地材を指定の取付け位置に、同梱の固定ねじ(DN65ねじφ3.8×65)で水平に取付けてください。



呼称	A
H20	1962.5
H特注時	DH+5

納まり	B
化粧縁片面	4
化粧縁両面	7



※C寸法は、8mm以上確保してください。
8mm以上確保できない場合は、固定ねじを斜めに打込むなどして補強材に固定してください。

お願い

※下地材固定ねじの頭は、下地材表面から飛び出さないように取付けてください。上レールが正しく取付けられなくなります。
※下地材は水平に取付けてください。水平に取付けていない場合、本体が自然に開閉する原因となります。

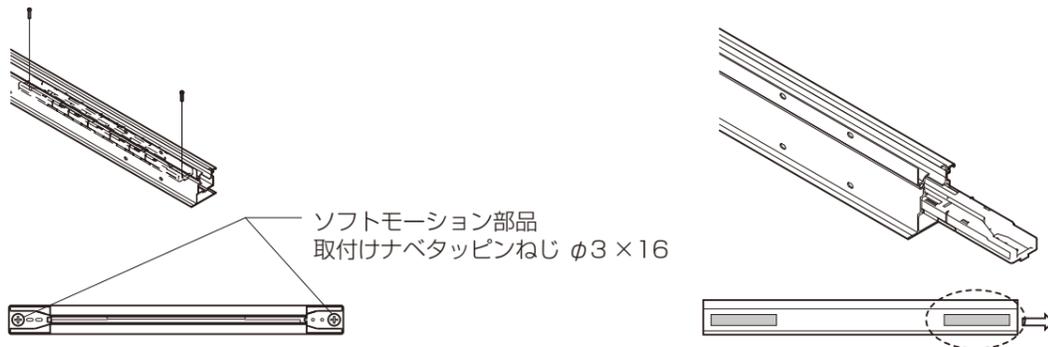
▲注意

- 商品が脱落するおそれがありますので、下記事項をお守りください。
- ・下地材は、必ず下穴をあけてから、ねじを固定してください。
- ・下地材の下穴は、端部から50mmの位置に1箇所ずつあけ、中間部のピッチは、455mm以下としてください。
- ・ねじは指定のものを指定本数使用して固定してください。

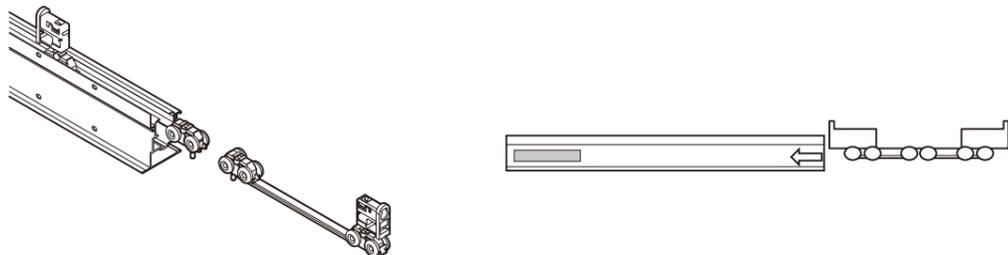
■ソフトモーション部品の取外し

③片側のソフトモーション部品を取外します。

取付けねじ2本を外し、横にスライドさせてレール端部より取出してください。

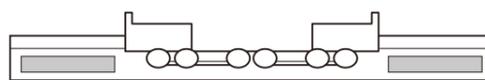


④ソフトモーション部品を外した側から、吊車を下図の向きで挿入してください。



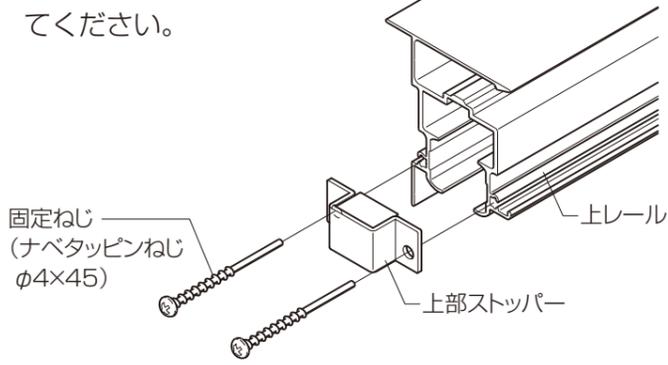
⑤外したソフトモーション部品を元の位置に再度取付けてください。

ソフトモーション部品に左右はありません。

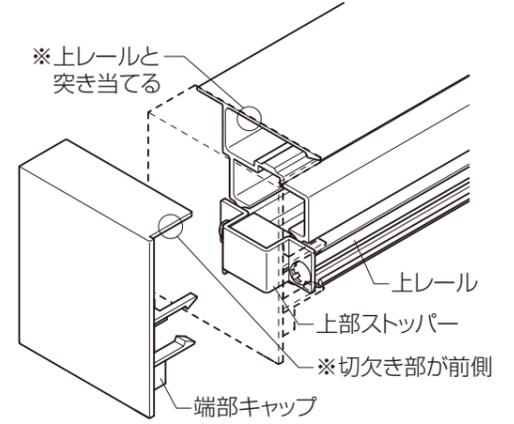
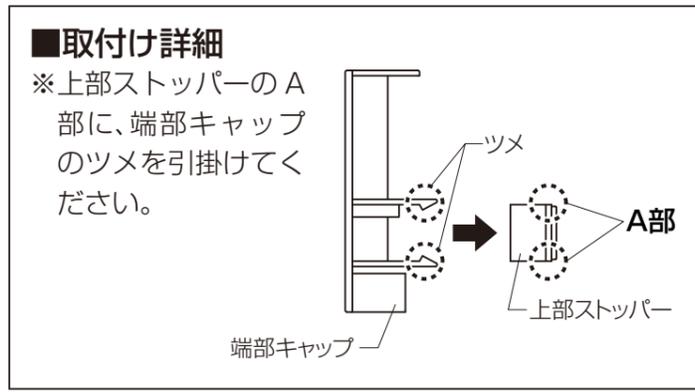


⑥組立て中に吊車が動かないように、マスキングテープなど(現場手配)で仮固定してください。

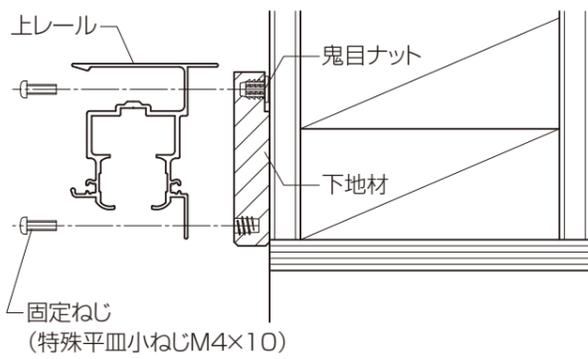
⑦上レール両端に、上部ストッパーを同梱の固定ねじ
(ナベタッピンねじ
φ4×45)で取付け
てください。



⑧上部ストッパー取付け後に、端部キャップL/Rをはめ込みます。(部品には左右があります)



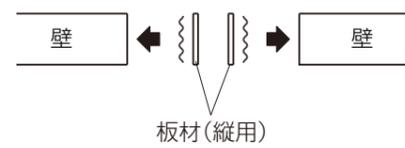
⑨上レールを下地材に取付け済みの鬼目ナット位置に合わせて、同梱のねじ(特殊平皿小ねじM4×10)で取付けます。



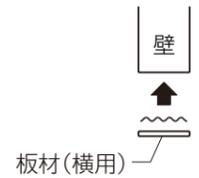
■両面化粧縁の場合

※板材を開口部に取り付けた後、化粧縁材を取付けてください。
※板材の開口部への取付けは、裏面(〜面)に接着剤を塗布して固定してください。また、板材への化粧縁材の固定用接着剤は、同梱のポリネートチューブを使用してください。

●横断面図

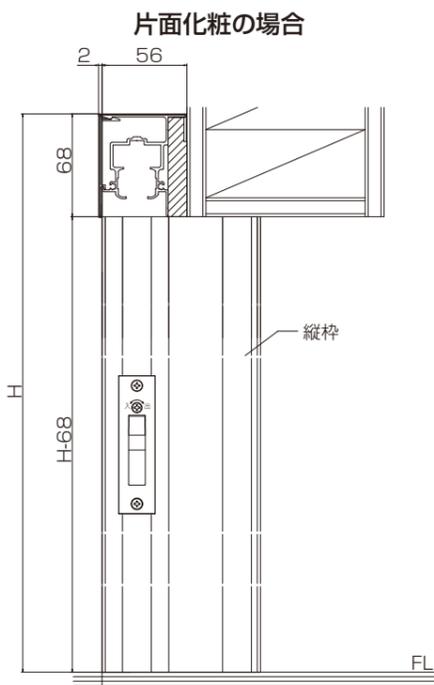


●縦断面図

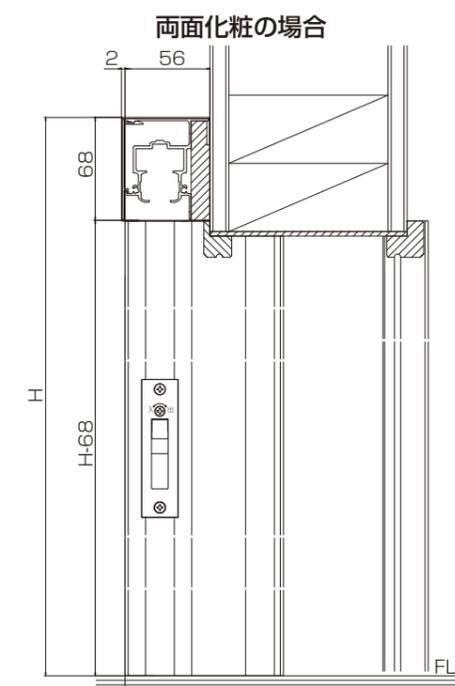


2 縦枠の取付け

①現場の納まりにあわせて縦枠の切断加工します。

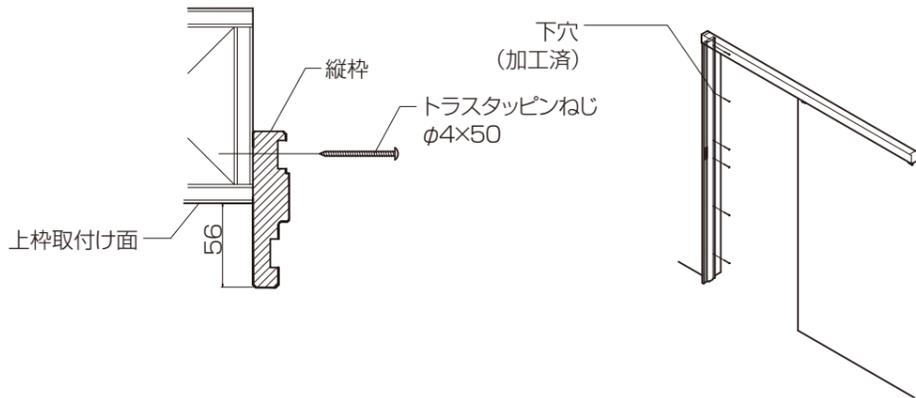


	調整材なし納まり例	調整材使用納まり例	化粧縁使用納まり例
縦断面			
加工寸法			



	調整材なし納まり例	調整材使用納まり例	化粧縁使用納まり例
縦断面	対応できません		
加工寸法	-		

②上レールと床の内側に、上レール側を基準として躯体から 56mm 飛び出させた状態で、トラスタッピンねじφ4×50 6本で固定します。

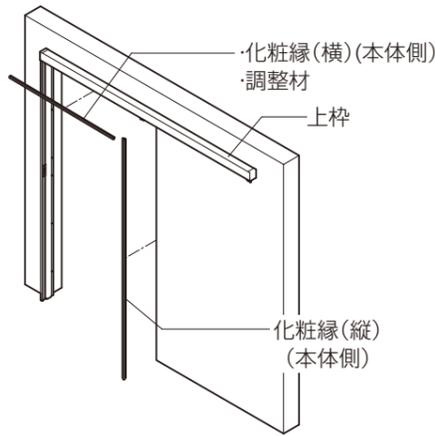


お願い

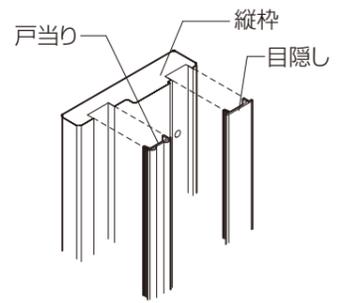
※縦枠は、垂直を出して取付けを行ってください。本体が縦枠の突起に当たり、閉まり切らなくなります。

3化粧縁の取付け

- ①化粧縁材を現場寸法に合わせて切断します。
- ②化粧縁材の裏面に接着剤(現場手配)を塗布し、かくし釘で固定します。
- ※かくし釘のピッチは、200~300mm です。
- ※化粧縁材の取付け面は、接着剤がつくように仕上げてください。

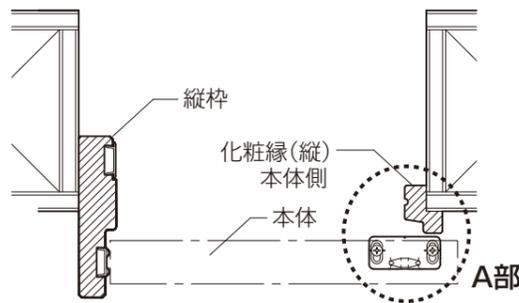


※縦枠の溝に戸当り、目隠しを接着剤(現場手配)で取付けます。



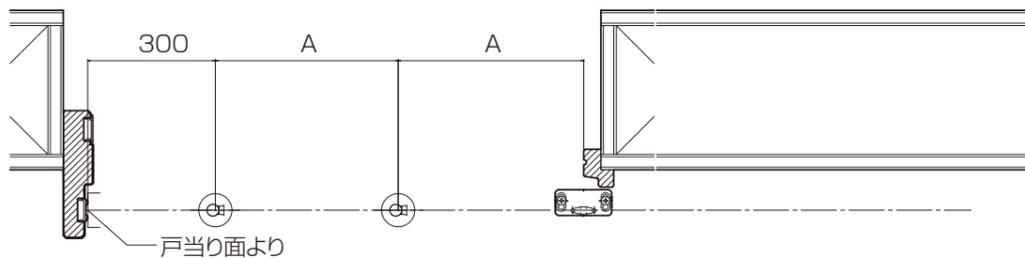
4ガイドピンの取付け

- ①固定ガイドピンを取付けてください。
- 固定ガイドピンを枠に同梱のねじ(皿タッピンねじφ3.5×20)で固定します。
- ※本体の開閉操作に影響が出ますので、必ずA部詳細図を参照してください。
- 図の位置および、向きにガイドピンを置き、ガイドピンの長穴(2カ所)の凸部(ライン)位置にねじ止めしてください。



■ A 部詳細図

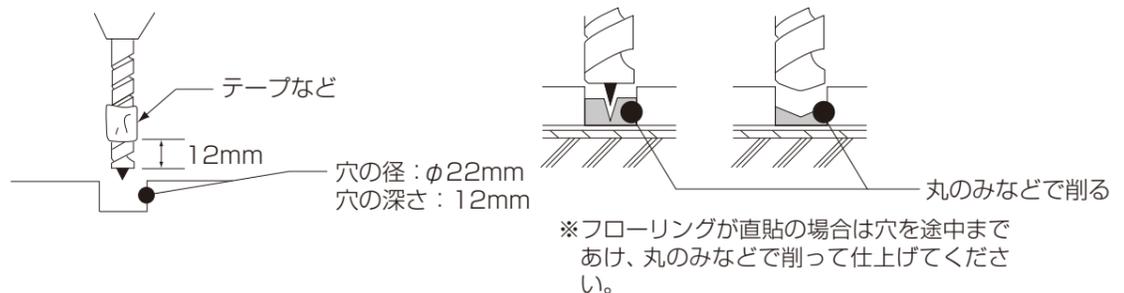
- ②埋込みガイドピンの位置出しをしてください。
- 下図の位置にガイドピンの位置出しをしてください。
- ※位置のズレは開閉方向で±10mm以下、本体の面方向で±2mm以下で位置出しをしてください。
- ズレが大きい場合、開閉時に本体がピンから外れる場合があります。



●サイズ別ガイドピン取付け位置 (A 寸法) (単位:mm)

呼称	W	DW	A 寸法
W20	1982	1038	352
W22	2182	1138	402
W26	2582	1338	502
特注	W	(W+94)/2	(W-574)/4

- ③埋込みガイドピンの位置にドリル(φ22)で穴を開けてください。
- ※ドリルの穴の深さの位置にテープを巻き目印とすると確実に12mm深さの穴をあけることができます。
- ※穴の深さが不足していると埋込みガイドピンベースが最後まで入らず走行性が悪くなります。
- ※穴をあけた後、バリ、切粉を取り除いてください。
- ※穴をあける際は床に対してドリルを垂直にしてください。本体開閉時の走行性が悪くなるおそれがあります。



- ④埋込みガイドピンベースを部品のつば部の溝が本体の走行方向に並行、または垂直になるように穴にはめ込んでください。
- ※直接部品をたたかず、あて木などを使用してください。床にキズがついたり部品が破損するおそれがあります。
- ※確実に埋込みガイドピンベースがはまっていることを確認してください。



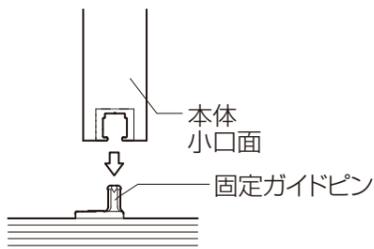
- ⑤埋込みガイドピンベースにガイドピン本体を図のようにカチッと音がするまで押込んでください。
- ※本体の吊込み後にピンの位置調整をします。本体吊込み後に、ガイドピン本体を取付ける場合は紛失に注意してください。



5 本体の吊込み

※本体の吊込み前に以下の作業を行ってください。

- ①本体を持上げて、本体下部の溝にガイドピンを入れます。



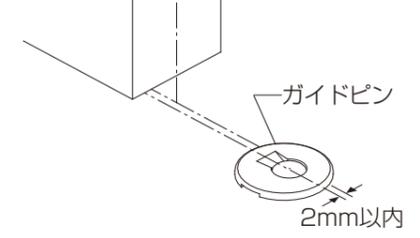
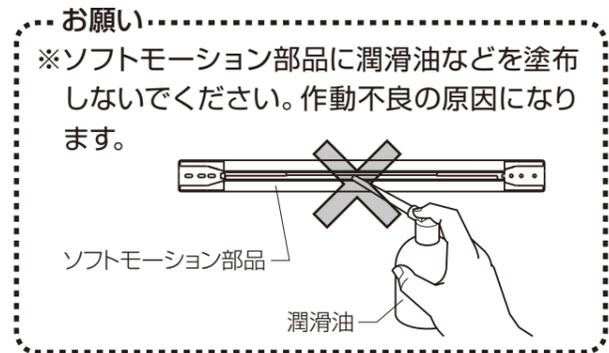
- ②片側ずつ吊車を本体に**水平に押込む**と、ワンタッチで取付けられます。

※吊車の凸部を本体上部溝の凹部に合わせて差込みます。

- ③本体と床のチリ寸法が $8(-1, +2)$ mm の範囲にあることを確認してください。調整が必要な場合は『■本体調整1上下調整』の手順にそって調整をしてください。

※本体と床の隙間が範囲から外れていると、ガイドピンが外れたり、ガイドピン本体と引戸の下部がこすれる場合があります。

- ④全てのガイドピンの中心が本体の中心から 2mm 以内にある事を確認してください。調整が必要な場合は『■本体の調整3ガイドピン位置前後調整』の手順にそって調整をしてください。

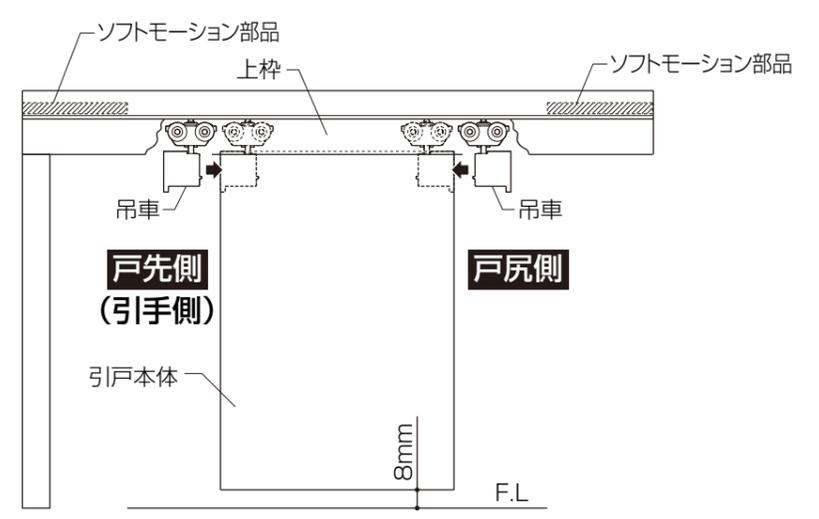


お願い

※ソフトモーション部品と吊車が干渉しない枠の中央部で吊込みを行ってください。

▲ 注意

●吊車の本体への取付けは、吊車が本体木口面と同一面になるまで押込んでください。押込み後、引張って抜けないことを確認してください。押込みが足りないと本体が脱落するおそれがあります。



■本体の調整

1 上下調整(調整幅+4mm、-1mm)

●プラスドライバーで、吊車上部の調整ねじを右に回すと本体が上がり、左に回すと本体が下がります。

※床面と本体下部とのチリ寸法は、 $8(-1, +2)$ mm が標準です。

※本体と床の隙間が範囲から外れていると、ガイドピンが外れたり、ガイドピンと引戸の下部がこすれる場合があります。

2 左右調整(±2mm)

●左右調整は、プラスドライバーで吊車下部の調整ねじを右に回すと本体が右へ動き、左に回すと本体が左に動きます。

3 ガイドピン位置前後調整(調整幅4mm)

●固定ガイドピンを切欠き部(2カ所)にマイナスドライバーを同時に差込んで外してください。

※切欠き部1カ所だけで外すと、製品が変形するおそれがあります。

※床にキズがつかないようにマイナスドライバーの下にあて布をして外してください。

●本体が静止していることを確認し、本体の中心線上にガイドピンの先端がくるようにガイドピンをまわして位置をあわせてください。

※中心のズレは 2mm 以下に調整してください。

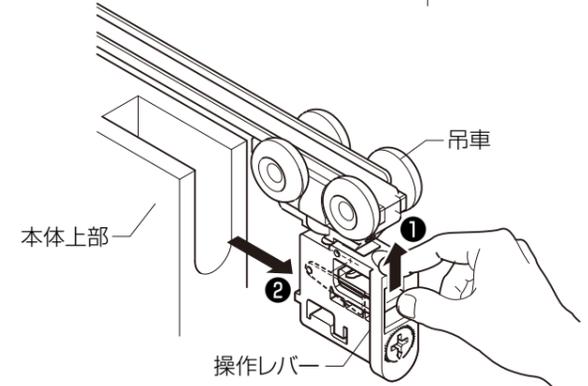
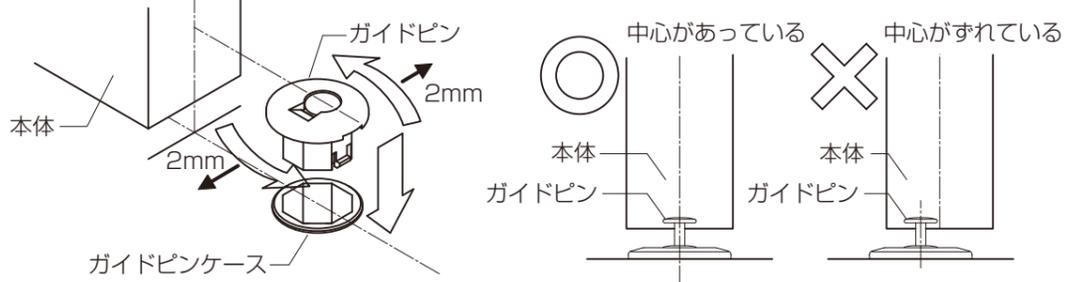
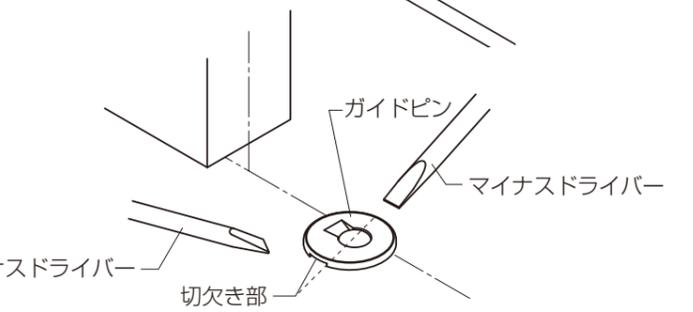
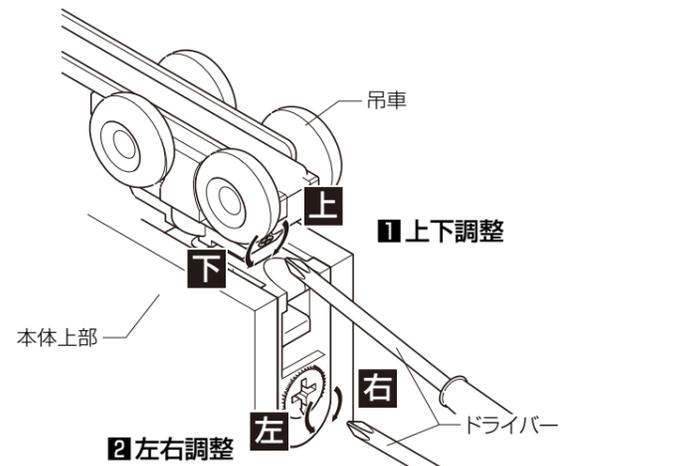
※中心がずれていると、可動間仕切り開閉時にガイドピンが外れてしまう場合があります。

※ガイドピンケース内部、ガイドピン本体にゴミなどが入り込んでいる場合はきれいに取り除いてください。

●位置があったらガイドピンをガイドピンケースへ最後まで押込んでください。

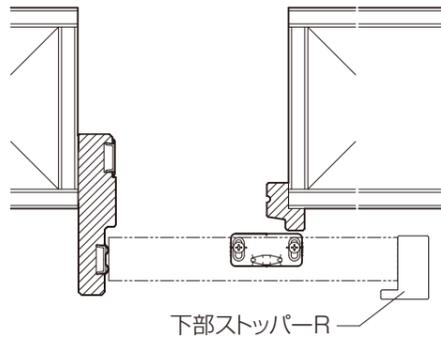
4 本体の取外し方法

●本体を手で支えてから吊車の操作レバーを指でつまみ、上に押し上げます。次に吊車を本体の内部ケースより引抜き、取外します。



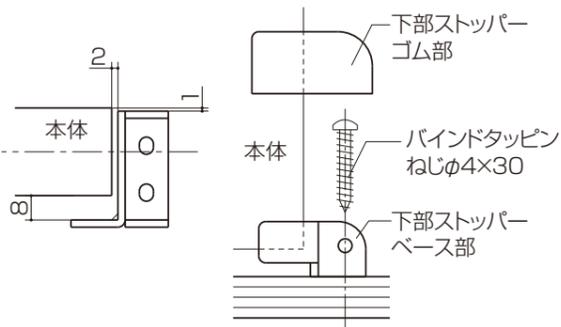
■下部ストッパーの取付け

- 下部ストッパーを同梱のねじ(バインドタッピンねじφ4×30)で固定します。
- ※本体を開閉した状態で位置出しをするので、本体の建付け調整後に取付けてください。
- ※下部ストッパーは片側(縦枠の逆側)のみ取付けてください。



■取付け詳細

※下部ストッパーベース部を床面に取付け後、下部ストッパーゴム部をベース部にかぶせます。

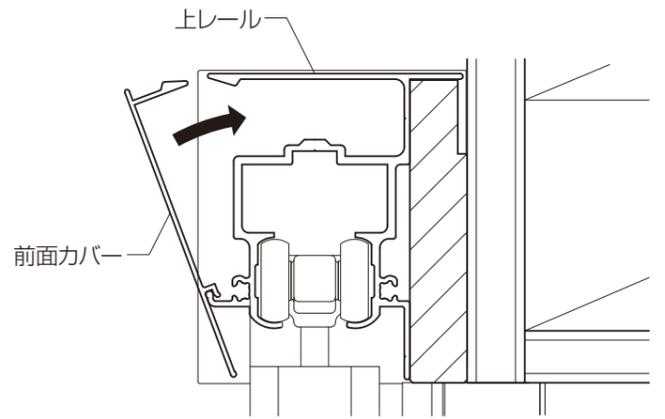


お願い

※吊車が上部ストッパー(ゴム部)に当たった状態で、下部ストッパーの位置出しをしてください。上部・下部のストッパーの位置がずれると、上レールが変形するおそれがあります。

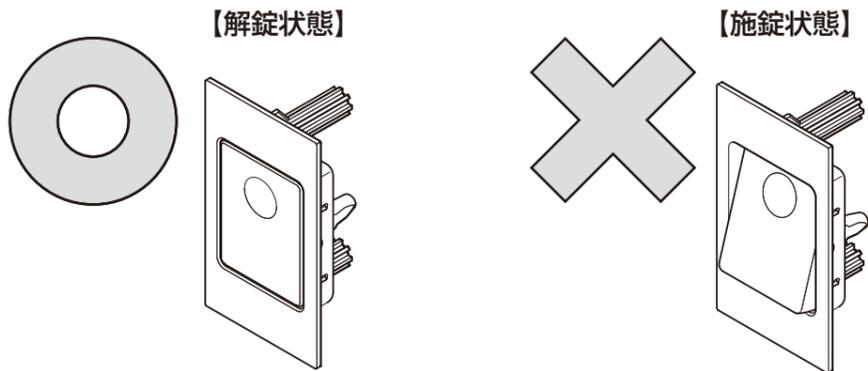
■前面カバーの取付け

- 前面カバーを上レールにはめ込みます。

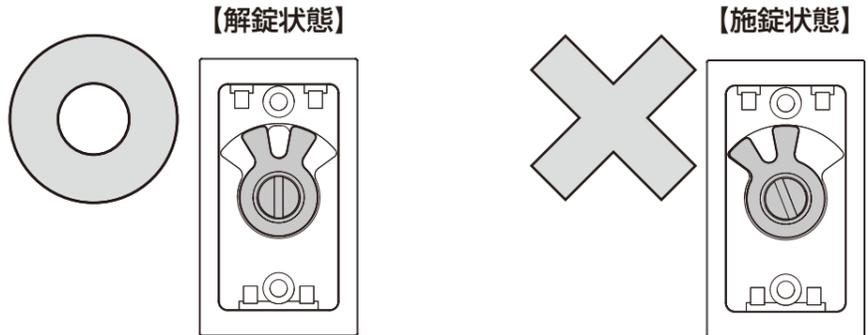


【錠の取付け】

- ①スイッチ座が解錠状態(フラットな状態)になっていることを確認して、スイッチ座を鎌錠のスロット穴に差込んでください。



- ②スイッチ座の軸心が解錠状態になっていることを確認して、錠座の軸芯を鎌錠のカムに差込んでください。



- ③スイッチ座と錠座を取付けねじで固定してください。

お願い

※必ず手回しドライバーでねじを固定してください。
※取付けねじを締付け過ぎないでください。錠座が反ります。

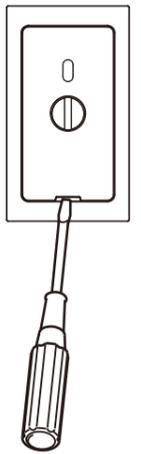
- ④錠座カバーを錠座に取付けてください。

【錠の取外し】

- ①錠座カバー下部の切欠き部にマイナスドライバーを差込んで錠座カバーを外してください。

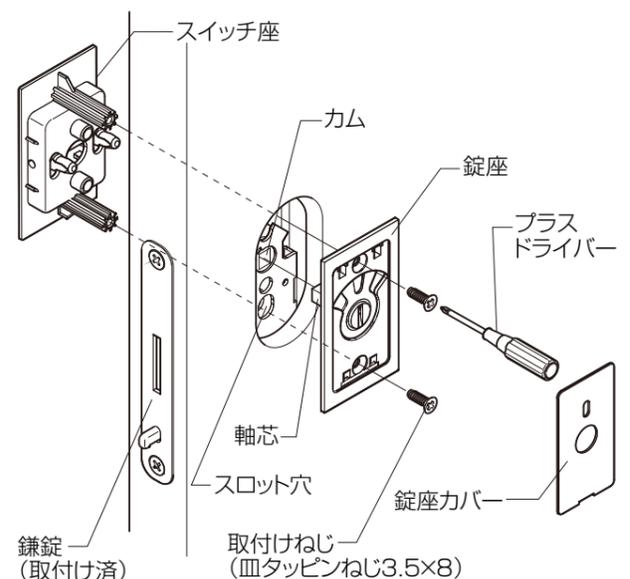
お願い
※無理矢理カバーを外さないでください。錠座カバーが破損するおそれがあります。

- ②スイッチ座と錠座の取付けねじを緩めてください。
- ③錠座とスイッチ座を外してください。



■引戸錠の取付け

- 別売りの錠を下図のように組立ててください。

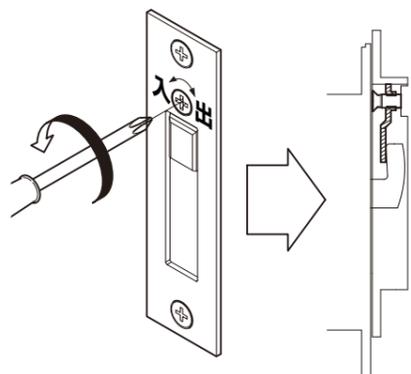


■引戸錠受けの取付け

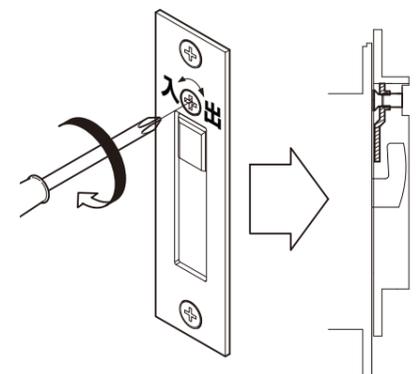
【引戸錠のかかり調整】

- 引戸錠受けの調整ねじを右に回すと錠のかかり部が出て、左に回すと錠のかかり部が奥に入ります。
- ※美和ロックFN錠ストライクには、錠のかかり調整機能は付いていません。調整が必要な場合は、吊車の上下調整(7/11)で対応してください。

- 本体と引戸錠のすき間が大きい場合
調整ねじを左に回して調整してください。



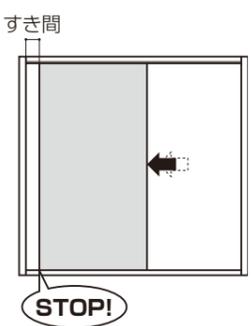
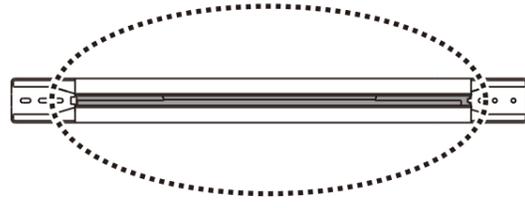
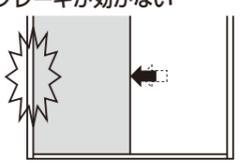
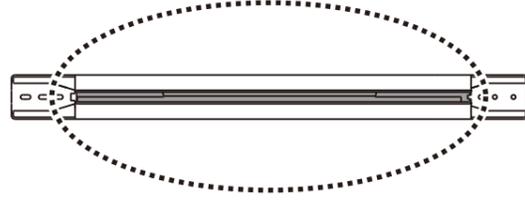
- 錠がかかりにくい場合
調整ねじを右に回して調整してください。



■バーハンドルの取付け

バーハンドルの取付けについては、別梱のバーハンドルセットに同梱の取付け説明書をご覧ください。
また、バーハンドルに同梱のドアストッパーは使用しません。

■ソフトモーション機能 異常時の対処方法

現象	チェックポイント	対処方法
閉まりきらない 	●ソフトモーション部品の外観に潤滑剤が塗布された形跡がある 	ソフトモーション部品の交換が必要です。
ブレーキが効かない  <p>※ブレーキの効きには限度があります。重量の重たい本体を速くしめると、ブレーキ感が弱く感じたり、逆に重量の軽い本体・Wサイズの小さい本体を早く閉めると、ブレーキ感を強く感じたりします。</p>	●ソフトモーション部品の外観に潤滑剤が塗布された形跡がある 	ソフトモーション部品の交換が必要です。

■ソフトモーション機構の復帰方法

●本体を吊込んでソフトモーション機構が作動しない場合は、ソフトモーション部品を確認してください。

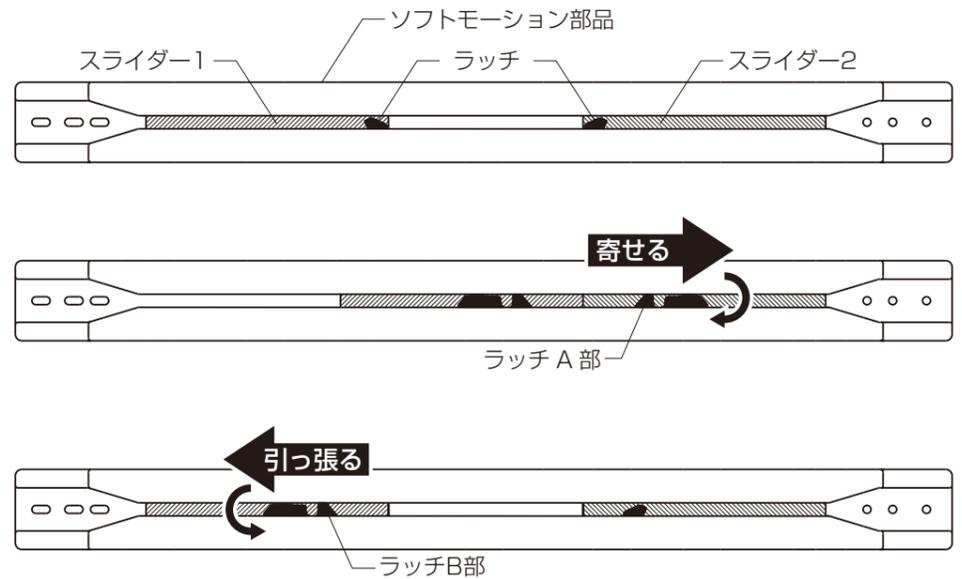
ソフトモーション部品の正常な状態は下図の通りです。

下図の状態ではない場合、以下の手順で正常な状態に戻してください。

※正常な状態はスライダ-1とスライダ-2が離れた状態です。

①スライダ-1を片側に寄せ、寄せた側と逆側のラッチA部にドライバーなどを挿入し、片側のラッチを回転させます。

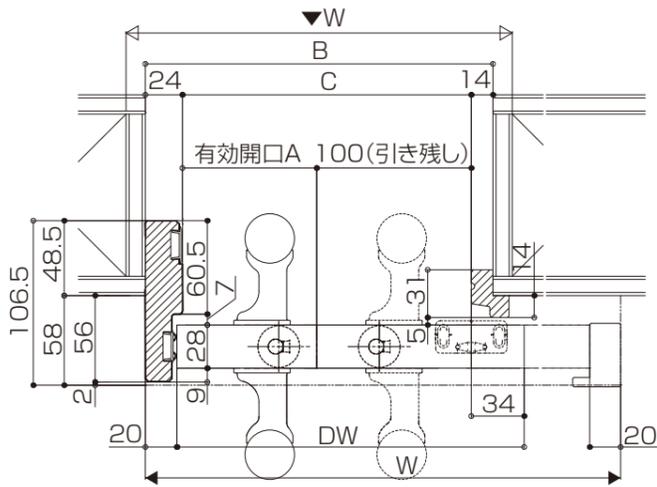
②回転させたラッチと逆側のラッチ(ラッチB部)にドライバーを挿入し、引っ張ります。引っ張ると端部でラッチが回転し正常な状態に戻ります。



参考納まり図

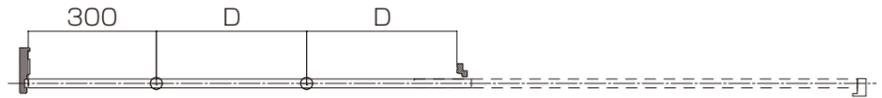
【化粧縁片面セット】

■横断面図



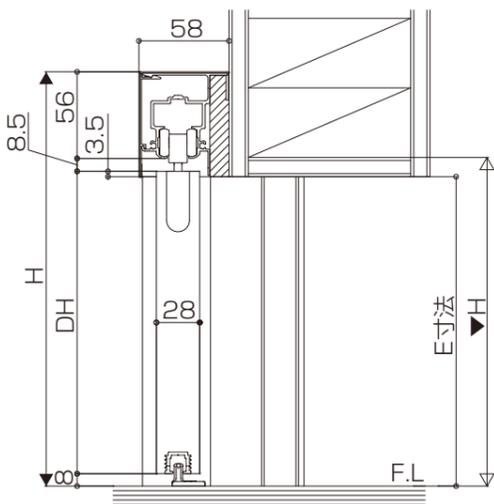
W呼称 (枠外寸法)	A寸法	B寸法	C寸法	D寸法
W20(1982)	900	1038	1000	352
W22(2182)	1000	1138	1100	402
W26(2582)	1200	1338	1300	502
特注	(W-182)/2	(W+94)/2	(W+18)/2	(W-574)/4

埋込みガイドピン配置図

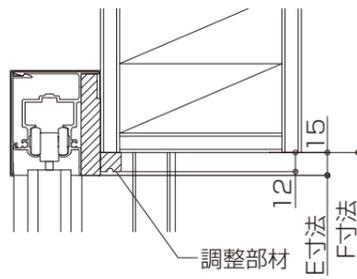


■縦断面図

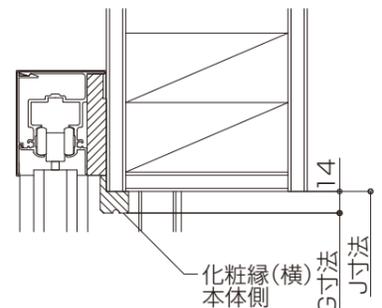
(上部化粧縁なし納まり)



(上部調整部材納まり)



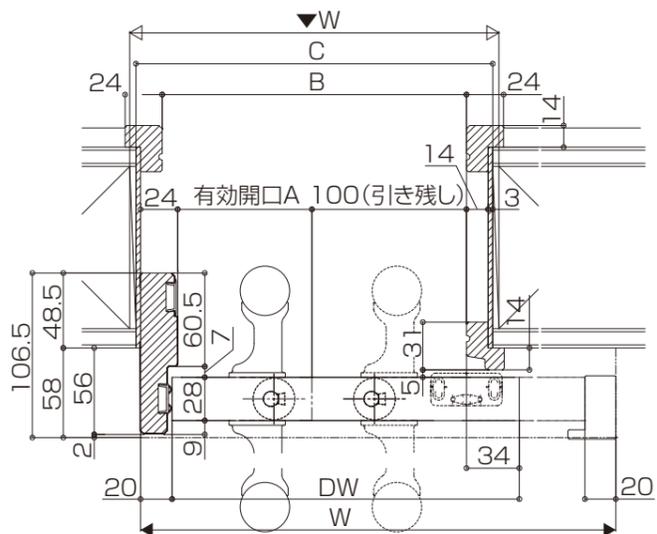
(上部化粧縁納まり)



H呼称 (枠外寸法)	E寸法	F寸法	G寸法	J寸法
H20(2030)	1962	1977	1938	1952
特注	H-68	H-53	H-92	H-78

【化粧縁両面セット】

■横断面図



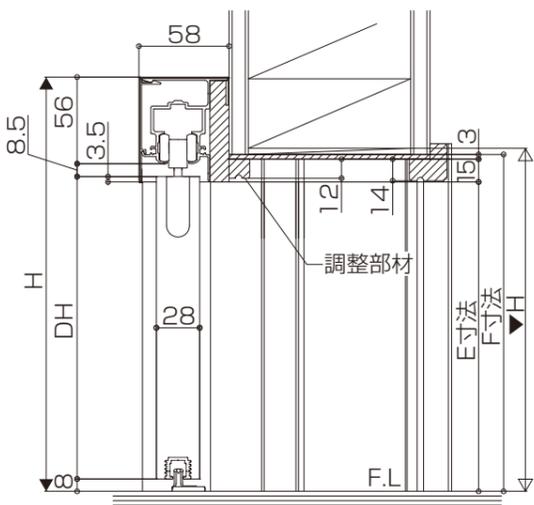
W呼称 (枠外寸法)	A寸法	B寸法	C寸法	D寸法
W20(1982)	900	1010	1044	352
W22(2182)	1000	1110	1144	402
W26(2582)	1200	1310	1344	502
特注	(W-182)/2	(W+38)/2	(W+106)/2	(W-574)/4

埋込みガイドピン配置図

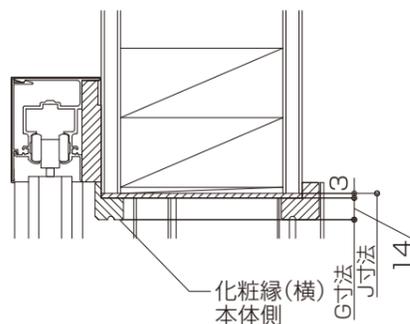


■縦断面図

(上部調整部材納まり)



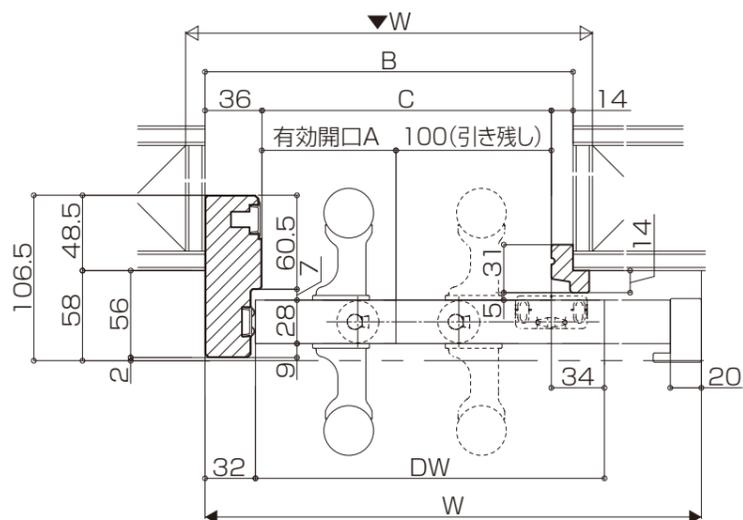
(上部化粧縁納まり)



H呼称 (枠外寸法)	E寸法	F寸法	G寸法	J寸法
H20(2030)	1962	1980	1938	1955
特注	H-68	H-50	H-92	H-75

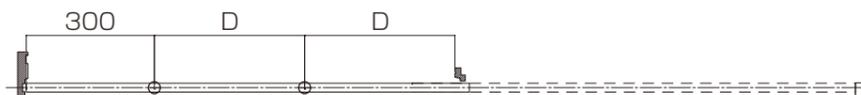
【化粧縁片面セット 美和ロックFN錠】

■横断面図



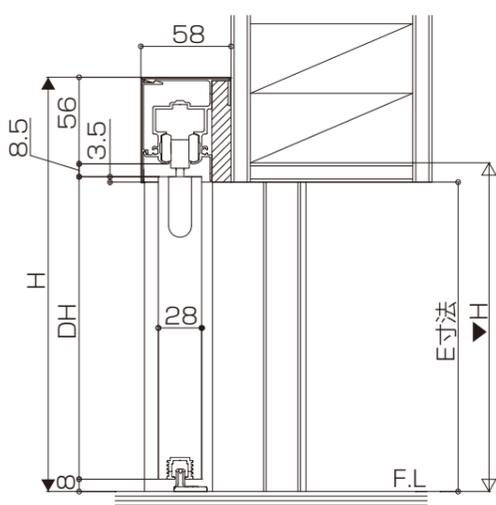
W呼称 (枠外寸法)	A寸法	B寸法	C寸法	D寸法
W20(1994)	900	1050	1000	352
W22(2194)	1000	1150	1100	402
W26(2594)	1200	1350	1300	502
特注	(W-194)/2	(W+106)/2	(W+6)/2	(W-586)/4

埋込みガイドピン配置図

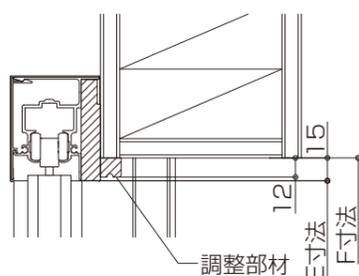


■縦断面図

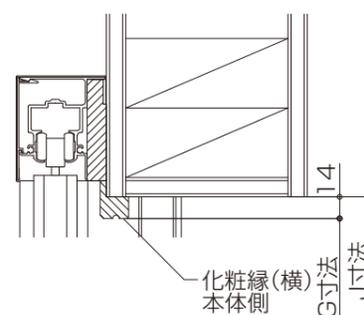
(上部化粧縁なし納まり)



(上部調整部材納まり)



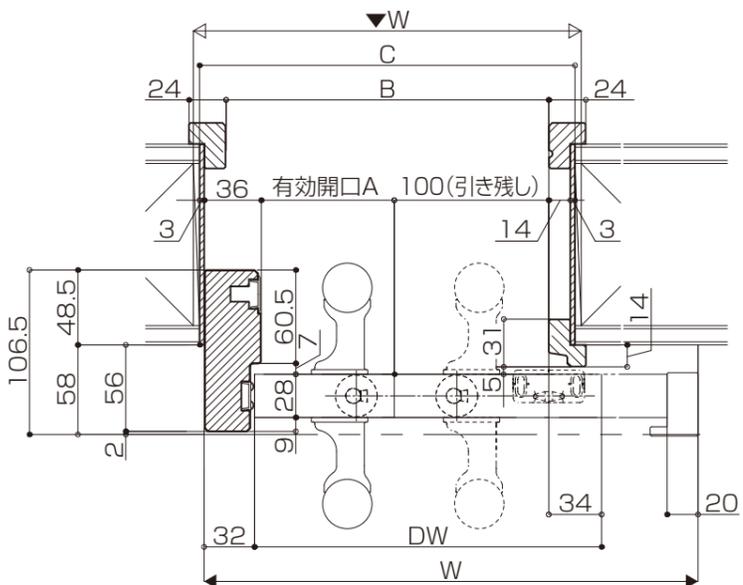
(上部化粧縁納まり)



H呼称 (枠外寸法)	E寸法	F寸法	G寸法	J寸法
H20(2030)	1962	1977	1938	1952
特注	H-68	H-53	H-92	H-78

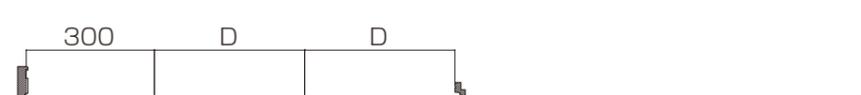
【化粧縁両面セット 美和ロックFN錠】

■横断面図



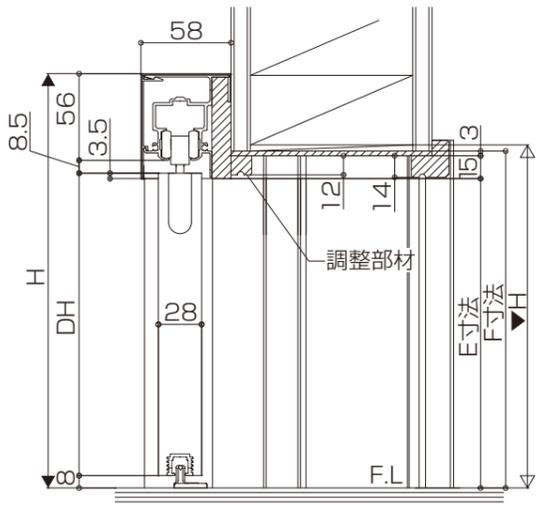
W呼称 (枠外寸法)	A寸法	B寸法	C寸法	D寸法
W20(1994)	900	1022	1056	352
W22(2194)	1000	1122	1156	402
W26(2594)	1200	1322	1356	502
特注	(W-194)/2	(W+50)/2	(W+118)/2	(W-586)/4

埋込みガイドピン配置図

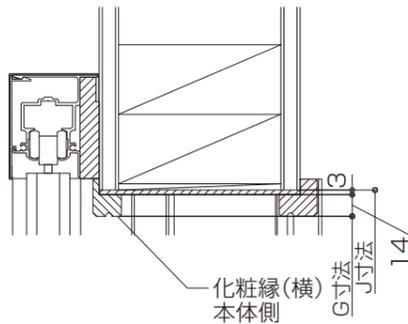


■縦断面図

(上部調整部材納まり)



(上部化粧縁納まり)



H呼称 (枠外寸法)	E寸法	F寸法	G寸法	J寸法
H20(2030)	1962	1980	1938	1955
特注	H-68	H-50	H-92	H-75